

国立台湾大学スプリングスクール

京都大学法学部2年 猪飼奈々

台湾大学では、大きく分けて二つ中国語と中華文化の授業がありました。中国語の授業は、初日のプレースメントテストで四つのレベルにクラス分けされ、毎日3時間または6時間の授業がありました。私のクラスではまず初めに先生が、生徒の興味のある分野（歴史、民族、小説など）を聞いて、それに基づいて授業を展開してくださいました。したがって授業では、街頭インタビュー、中国語劇の発表、小説・映画鑑賞など、様々な形で中国語を使う練習をさせてもらい毎日楽しく勉強できました。

文化の授業では、英語で音楽、宗教、民俗学などの観点から中華文化を学びました。実際に映像を見たり音楽を聴いたりして、体験しながら楽しめました。

この留学で得たこととしては、まず中国語の運用能力が上げられますが、それだけではありません。むしろそれ以上に、台湾という国の持つ多様性や歴史的背景、さらにはアイデンティティの問題について考えたことの方が大きかったです。この3週間に名前を付けるなら、『自分の当たり前が、みんなにとって当たり前だとは限らないと思い知った3週間』になるとおもいます。

多様性を尊重する国台湾で、様々なバックグラウンドを持った人に出会う中で、自分がいかに偏った見方、限られた視野で周りを見ていたかということに気づき、いい意味でショックを受けました。

日本以外の国のルーツを持つ友達とは、その国について深く理解していてそれを惜しむことなく話してくれて、とても勉強になりました。みんなは私にとっての各国親善大使です。同時に私も日本のことを他国の人に説明できるほどに、知っておかなければと思いました。

また、日本の台湾統治時代についても初めて具体的に知りました。日本が台湾に与えた影響は思っていた以上に大きく、いい面も悪い面もあると分かりました。日本人である以上、知っておくべきことだなと感じたので、これから詳しく見ていきたいです。

将来の進路への影響についてですが、この短期留学に参加する前から一年間の長期留学に参加することは決めていました。しかし具体的にどこに行きたいということは明確ではありませんでした。この台湾大学での短期留学に参加して、文化の多様性や個人のアイデンティティの問題について非常に興味をもちました。よって留学先としては多様な民族が集まる国を選ぼうと決断することができました。また志の高い仲間に出会い、毎晩遅くまで夢を語り合ったことは、非常に刺激になりました。このような機会を頂いたことに感謝し、この留学での出会いを大切に、今後も精進していきたいです。